

# 図書館通信 —90—

1989. 12

## 気軽に見つける

附属図書館浜松分館長 藤田郁夫

古い装置についていた小さなネジをなくし、捜し始めてもなかなか見つからない。他のネジで代用しようとしても規格が違う。もう一度気を取り直してやっと見つけた頃は、いい加減くたびれている。小道具や日用品ではこれに類したことがよく起きる。使った物をその都度元の場所へ戻すことにすれば、捜す時間を減らすことはできるかも知れないが、整理の時間と捜す時間は相補的な傾向にあって、機械的な整理や過度の整頓に長い時間をかけるのは必ずしも賢明ではない。ワープロの漢字の「しまい方」は多少工夫されていて、いま使った漢字を一番近くへ置く。小道具を使い終わった場所へそのまま放って置くのに似ていて、同じ作業を繰り返すときは便利である。初めての土地で人を訪ねるのにも、ある程度のノウハウを予め心得ておかないと、住所と名前だけでは難しいことは誰でも経験する。人は記憶に頼ったり整理の仕方を工夫したりして、物を捜す時間をなるべく短くしようとするが、思うようにならないのが現実である。そんな時間はあるのが当然という場合もあるが、どう考えても無駄であるとか、苦痛に思えることさえある。

また、同じ物を見つかるにしても、人の心理状態は様々であり、見つけた物が人の心に与える効果もまた多様である。浜辺でコンタクトレンズを一枚落としたとしよう。しまったという意識と足元の辺りに必ずあるという信念とが交錯し、時が経つにつれて発見は心許なくなり、レンズの値段が脳裏をかすめ、祈るような気持になる。ひょっとすると風で……などと考えるものだから、初めは思いもしなかった遠方まで搜索範囲が広がる。砂に埋もれてしまったのか、どうにも見あたらなくなったところ、集中力が持続できそうなサイズの碁盤の目に分けて、一区画ずつ根気よく調べる。レンズ以外の物には盲目になる。貝殻などはどんなにすばらしくても無用の物であり、レンズであるかどうかという単純な判定基準で遠くへポイで

ある。苦勞してでもレンズが見つければ幸いである。貝殻に触れたことなどはすっかり忘れてしまうに違いない。わき目も振らず目指す物を見つけるのに全力を注ぐ様は、もの探しの典型である研究活動に通じるところがある。

気軽な浜辺の散策は快適である。腰を下ろしているだけでも、休息と安らぎを与えてくれる。ときには思いもかけず美しい貝殻を見つかることがある。捜すともなく見つけた貝殻は、人がその造形に思いを馳せるとき、宇宙の無限の広がりや悠久の時の流れを感じさせるに十分であり、心に様々な感動を呼び起こす。人にはそんな時間と感動が必要なのではあるまいか。

学生が図書館を訪ねるのは、主に学習や研究に必要な資料や文献情報を求めてであり、明確な成果を期待してであろう。学生はかなりの時間と努力が要求されることが多いためか、図書館にはもう一つのイメージがあって、ややもすれば足が遠のく傾向にあるのではなからうか。だが、図書館はいろいろな意味でも物を見つけるのには好都合な場所である。人は一生のかんりの部分をも物を見つけるために割き、そのまたかなりの部分を結構つまらぬことに費やしている。図書館でも、ときには学問的な成果をあまり意識せず、もう少し気軽に自分自身のために何かを見つける時間があったほうが良いと思う。

通りすがりの書店で、これはと思う本を見つけてうれしくなることがある。本学の図書館にもそんな気軽さで立ち寄ってみてはどうだろう。書店のように新刊図書やベストセラーが豊富に並んでいるわけではないが、時間を超えた内容の良書の蓄積も少なくない。数頁いや数行の気ままな拾い読みでも良いではないか。ときには一気に読み通したくなる本にも出会うであろうし、先人の遺産に感動し、自らの人生にかけがえのないものを見つけてことができるかもしれない。若い学生時代だからこそである。

## 図書館に関連した私的経験

秋山 鐵夫

大学の二年生の頃であったと思う。私は数十人入る階段教室で午後5時半頃明りをつけて一人で勉強していた。その時、後に学長（東工大）になられた川上正光教授が教室に来られ、“教室の明りをつけて一人で居るやつがあるか、もったいない。勉強するなら図書館へ行ってやれ。”とどなられた。私自身、少し悪いかなど思いながら勉強していたので反論は差控えて退散した。しかし今でも反論しなかったことを残念に思っている。

当時、図書館は5時で閉まり、私は家庭教師のアルバイトに行くまでどうしても週に1日、5時から6時の間1時間、どこかで過ごさなければならぬ時があった。この時間帯は友達も下校しているし、自宅に帰ればアルバイトに遅れるためやむなく教室で宿題をしていたのである。蛇足ながら当時の日本は今とは比較にならないほど貧しく、多くの学生は遊ぶためより、生活のためにアルバイトをしていた。

図書館の閉館時間も知らない大学教授が雑談している学生ならともかく勉強している学生を電気代がもったいないから教室から追い出して良いものであろうか？ 今でも私は積然としないのである。川上教授は最近“日本に大学らしい大学はあるのか”という著書を出版された。自信を持っている人しか発言できないような思いきったことを書いておられ共感するところが多かった。しかし私は大学二年生の時“図書館の閉館時間も知らないでいきなりどなる先生があるか”と反発した気持ちを忘れないでいる。それにつけてもあの時なぜ“図書館は5時に閉っており、先生が私でしたらこの貴重な一時間をどうお過ごしでしょうか”と質問しなかったかと後悔している。その後、納得のいかない事に対しては努めて質問することになっている。女房に対してもそうしている。

1963年8月の1ヶ月間、私はアメリカのカンサス大学でフルブライト留学生としてオリエンテーションに参加した。英語の教育を中心として、留学生がアメリカの学生生活を始める手助けをする企画であり、アジア、アフリカ、南米、ヨーロッパと世界約50ヶ国くらいから学生が参加していた。英語の勉強の外にアメリカを紹介するプログラムがあり、アメリカのジャーナリズムについての講義もあった。タイム、ライフ、ルック等の雑誌の解説があり、図書館の利用方法、システム等についての説明があった。しかし、内容は全く憶

えていない。漆黒の色をしたアフリカからの留学生が、シェイクスピアとは何者でスレイブとはどういう意味かと質問した事を妙に生々しく憶えている。アメリカの片田舎（静岡も浜松もその範ちゅうに入るが）のカンサス大学の図書館で日本の新聞に加え、週刊誌も置いてあるのを見た時は驚いた。今でこそ貿易摩擦などを中心として日本の事が連日報道されているが、当時のアメリカでは日本の事など問題にされることなどほとんど無かった。セカンドカーとしてホルクスワーゲンのビートルズが全盛をきわめ、日本車を見ることはまず無かった頃である。

1963年の9月から4年間私はシカゴの郊外、エバンストンにあるノースウエスタン大学で大学院生活を送った。図書館では、多くの学生が実に静かに勉強していた。私語はするが必要最小限に留めていた。男ばかりの学部生活を送った私にとって図書館に多くの女子学生が居るのは新鮮な驚きであった。そばに座っていた酸素記号を思わせるようなポインちゃんから突然“酸素の分子量はいくらだっけ”と質問されたりした。それくらいの言葉は交わすが長々と議論などはしないのである。そこでは公共の場では他人に迷惑をかけないというルールが守られていた。

1980年に私は客員教授としてケンタッキー大学に招かれた。図書館に行つて驚いた。学生が盛んに話し合いながら勉強していた。静かに読書をする雰囲気などどこか別の世界の事のようにであった。イギリスに長年勤めた経験のある日本の大学の先生もケンタッキー大学の図書館の学生の騒々しさには憤慨しておられた。

学生の学習態度の変化は一大学だけの現象ではなく、アメリカは十数年の間が変わっていた。それは図書館における学生の生態を通して知ることができた。他人の事に関与するよりまず自分の権利を主張し、自分のしたいことを追求する。これが今日の（若い人を中心にした）アメリカの風調である。その結果、皮肉にも、全ての人の生活の質が下がっているのである。静大の場合はどうであろうか？

受験を中心にした受動的な教育を受けてきた学生は、図書館を主としてレポートの共同作成所として使うが、疑問やテーマの調査の場として利用することはあまり無いようである。これはしかし静大だけの問題ではない。（工学部・化学工学）

## 学術情報センターの情報検索サービス (NACSIS-IR) についてのお知らせ

(本館)

附属図書館本館では、教官に対して、今年度より学術情報センターの提供する情報検索システム(NACSIS-IR)の検索サービスを開始しました。同システムは現在23種のデータベース(データ

1,400万件以上)を含み、内容は逐次更新されています。外国から導入した二次情報データベースのほかに、100校に及ぶ国内の大学図書館等の所蔵する図書の本館情報データベース、600を超える機関の雑誌の本館情報、更に科学研究費研究成果報告概要等、他のシステムにはない学術情報センターが作成したデータベースも含まれています。(次頁の表を参照)

利用については、参考調査係にお申し出ください。学術情報センター発行の『情報検索サービス利用の手引き』と各種データベースの検索マニュアルが備えてあります。

また、学術情報センターへ利用申請すれば、研究室のパソコンから、公衆電話回線による利用もできます。あるいは静岡大学東部地区電子計算機により、大学間コンピュータネットワーク(N-1)経由でも接続できます。(新年度より情報処理センターへ受け継がれます。)

尚、当館では、従来から米国のDIALOG Information Services社のDIALOG、日本科学技術情報センターのJOIS、N-1経由による東大・筑波大のシステムによるオンライン情報サービスも行っています。併せてご利用ください。

### 「目録所在情報データベース(和図書)」(JBCAT)の検索例

```
>>JBCAT
*
Welcome to NACSIS-IR "JBCAT" database. (Rel. 891101)
This database contains 930481 records.
For further information, enter ?INFO1 or ?INFO2 subcommand.
?INFO1 : Explains items describing Bibliographic and
          Holding Record.
?INFO2 : Explains items describing Authority Record.

TYPE IN COMMAND
1/ PHRASE JJO ノ Y.1989
   PHRASE JJO ノ Y.1989

* 1388      K. JJO
* 578       K. ノ
* 13840     Y. 1989
* 3         1/ "K. JJO" AND "K. ノ" AND "Y. 1989" END NOSAVE

TYPE IN COMMAND
2/ D
   D

-----
< 1)
ACCN:000299851 NCID:BN02990510
TITL:乳児の脳と心 / R. H. 12977著 ; 河内十郎, 高城薫訳 || コック ノ ノット JJO
PUBL:東京 : 新曜社 , 1989. 1

-----
< 2)
ACCN:000322469 NCID:BN03224699
TITL:心は脳を癒える : 人間存在の不思議 / ジョン・C・イヤーズ, 9" CIA-N-DC"著 ; 大村
裕[ほか]共訳 || JJO ノ ノット JJA : コック ノ ノット ノ ノット
PUBL:東京 : 紀伊国屋書店 , 1989. 2

-----
< 3)
ACCN:000371271 NCID:BN03712717
TITL:脳がここまでわかってきた : 分子生理学による「心の解剖」 / 大木幸介著 || ノ
カ ノ ノット ノ ノット ; ノット ノット ノット JJA JJO ノ ノット
PUBL:東京 : 光文社 , 1989. 4

TYPE IN COMMAND
2/ D N.2,M.C
   D N.2,M.C

-----
< 2)
ACCN:000322469 NCID:BN03224699
YEAR:1989 QIRN:JJA:8900528
TITL:心は脳を癒える : 人間存在の不思議 / ジョン・C・イヤーズ, 9" CIA-N-DC"著 ; 大村
裕[ほか]共訳 || JJO ノ ノット JJA : コック ノ ノット ノ ノット
PUBL:東京 : 紀伊国屋書店 , 1989. 2
PHYS:270cm ; 20cm
VTIL:DR:The wonder of being human : our brain and our mind
AUTH:Eccles, John C. (John Carew), Sir, 1903- <DA00660484>
AUTH:Robinson, Daniel M., 1937- <DA00418966>
AUTH:大村, 裕(1925-) || 1242, 29 <DA00077617>
VOL : ISBN:4314005130 PRCE:2300円
NBHD:0031
HOLD:静大 図(FA002371)
HOLD:名工大 図(FA002542) CL.491.37||E 16
HOLD:千大 養体育(FA001754) CL.491.37

~~~~~
TYPE IN COMMAND
2/ END
End of NACSIS-IR "JBCAT" database.

DB-USE CHARGE= 30YEN
>>LOGOFF
```

## ●利用できるサービス・データベース一覧

	データベース名	データ件数*	収録期間	対象分野	内 容
二 次 情 報 デ ィ タ ベ ィ ス	Life Sciences Collection	69万件	1982～ 最新版	生命科学	抄録付き文献情報
	MathSci	61万件	1973～ 最新版	数学	Mathematical Reviews誌、Current Mathematical Publications誌に対応する抄録付き文献情報
	COMPENDEX	150万件	1976～ 最新版	工学	Engineering Index誌に対応する抄録付き文献情報
	Ei Engineering Meetings	43万件	1984～ 最新版	工学	The Engineering Conference Index誌に対応する会議録論文の抄録付き情報
	Harvard Business Review	2,300件	1927～ 最新版	経営学	Harvard Business Review誌の全文情報
	ISTP & B	124万件	1982～ 最新版	科学技術	Index to Scientific & Technical Proceedings誌に対応する会議録の索引情報
	EMBASE	74万件	1986～ 最新版	医学・ 薬学	Excerpta Medica誌に対応する抄録付き文献情報
	SciSearch	140万件	1987～ 最新版	自然科学	Science Citation Index誌に対応する索引及び引用情報
	Social SciSearch	24万件	1987～ 最新版	社会科学	Social Science Citation Index誌に対応する索引及び引用情報
	A & H Search	22万件	1987～ 最新版	人文科学	Art & Humanities Citation Index誌に対応する索引及び引用情報
	科学研究費補助金研究成果概要データベース	25,400件	1985～ 最新版	全分野	文部省の科学研究費により行われた研究の研究成果報告概要の情報
	学位論文索引データベース	31,000件	1984～ 最新版	全分野	我が国の大学で授与される博士学位論文の索引情報
	M A R C デ ィ タ ベ ィ ス	JPMARC	80万件	1969～ 最新版	全分野
LCMARC(Books)		260万件	1968～ 最新版	全分野	主として米国で発行された図書の本誌情報
LCMARC(Serials)		45万件	1973～ 最新版	全分野	欧文雑誌の本誌情報
目 録 所 在 情 報 デ ィ タ ベ ィ ス	目録所在情報データベース (和図書)	書誌 25万件 所蔵 75万件	1986～ 最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される和図書の総合目録情報
	目録所在情報データベース (洋図書)	書誌 58万件 所蔵 85万件	1986～ 最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される洋図書の総合目録情報
	目録所在情報データベース (和雑誌)	書誌 4.5万件 所蔵 100万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される学術和雑誌の総合目録情報
	目録所在情報データベース (洋雑誌)	書誌 10万件 所蔵 84万件	最新版	全分野	我が国の大学図書館等に所蔵される学術洋雑誌の総合目録情報
そ の 他	データベース・ ディレクトリ	750件	1988年 11月調査	全分野	大学等で作成、検索サービスされているデータベースのディレクトリ

# 目録について

## 1. 利用度が高い……

利用者用端末が、ひじょうに良く利用されています。お昼すぎから3時半ごろまでの間は、ひきもきらずに、という状況です。図書館としては、嬉しい限りですが、少なからずの人が、目的をはたさずに席を立っているようでもあります。原因としては、次のようなことが考えられます。

①キーボードを扱いかねているケース。カナを入力しようとして「ア」を捜し、「イ」を捜し、あるいは、ローマ字カナ変換を行おうとして、うまくいかない。めんどろになって、席を立ってしまう。非情のようですが、慣れていただきたい、とのべるしかありません。

②キーワードの入力のしかたが間違っているケース。「ペルソナの詩学」という本を検索しようとして「ペルソナノシガク」なる文字列を入力したが、結果は「所蔵なし」。最初の入力場所に「ペルソナ」と入れ、「シガク」を次の場所に入れるのが正しい方法だからです。

端末の脇に置いてあるマニュアルを読んでいただくか、図書館の職員にたずねるのが、解決の方法。

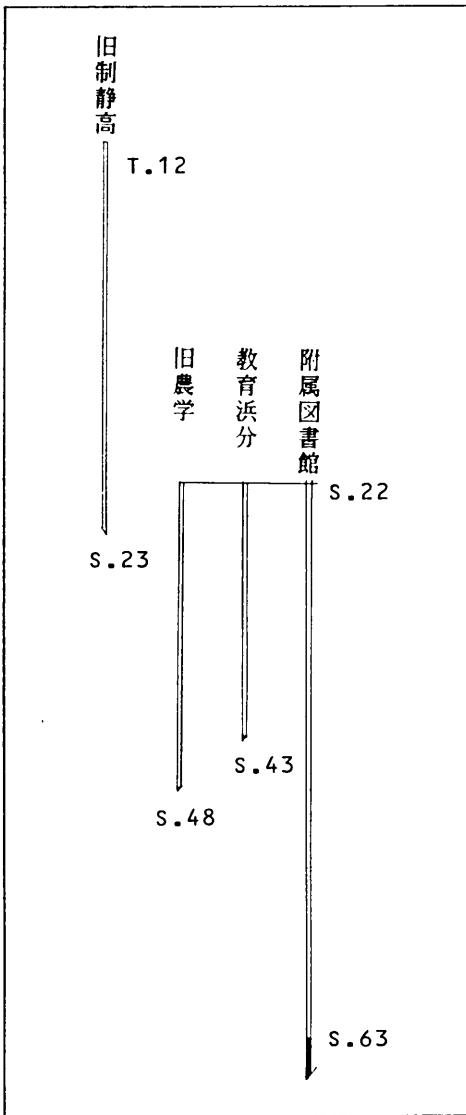
③コンピュータに入っていないデータをひき出そうとしているケース——実は、これが本稿の主題です。

## 2. 《書庫》にあるべき本が……

レポートを書くのに必要な本が書庫の中にあるはずだ、と教官にいわれて図書館にいくと、館員に、目録を調べ、閲覧票に必要事項を記入し請求してください、といわれる。

端末の前にすわるが、「所蔵なし」の表示しか出てこない。

利用者用端末をたたいただけでは、図書館の蔵書のごく一部分を調べたにすぎないのです。下図を見ていただきたい。《書庫内の本》と限定しますと、右下の黒くぬりつぶしたところ(S.63の下部)だけが、コンピュータに入力されている分です。図書館に所蔵されている本の全容を知るには、カード目録をひく必要があります。



## 3. カード目録

学生案内などについている静岡大学の沿革図を見ると、前身として、実にいろいろな学校があります。図書館はそれらの蔵書を引きついでいますが、目録としては、4つの系統に集約されています。

「旧制静高」分は、大正12年から昭和23年までのもので、独特な分類がされています。約3万冊。全集・叢書の類がよく揃っています。

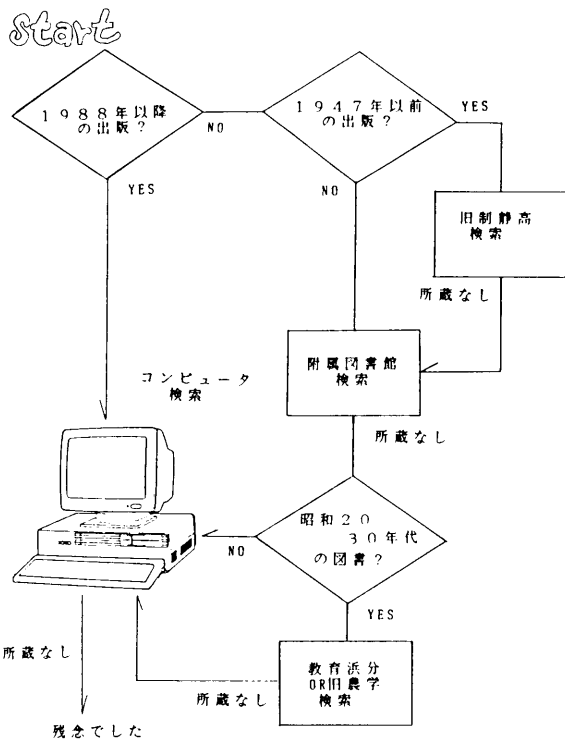
「旧農学」とあるのは、農学部が磐田にあった時代の蔵書で、昭和48年まで。約3万冊。当然、農学関係の図書が主力ですが、報告書類等、社会科学分野で思わぬ拾いものがあるかも知れません。

「教育浜分」は、教育学部の浜松分校があった時のもの。これも約3万冊で、広い分野の図書が集められています。「附属図書館」分は、本図書館のメイン・コレクションたる部分で、数量的にも圧倒的に多く、目録ボックスの数も他を圧しています。

前記の3つは、この「附属図書館」分のならびに、寄りそうように置かれていますので、見逃している人も多いと

思われます。よく解らない人は、どしどし図書館の職員にたずねてください。

以下、もっと効果的と思われる、目録へのアクセスのしかたの一例を図示します。



### 図書館委員会報告

(平成元年度第3回 H1.7.18・火)

#### 議事

1. 静岡大学附属図書館文献複写規定の一部改正について審議し、原案どおり承認した。
2. 静岡大学附属図書館文献複写料金徴収猶予実施細則の制定について審議し、原案どおり承認した。

(平成元年度第4回 H1.9.27・水)

#### 議事

1. 浜松分館長である藤田教官を、情報処理センター運営委員会委員として選出した。
2. 情報処理センター及び学内 LAN への対応について、電算化専門委員会において継続審議となったことを受けて、この件については、電算化専門委員会での審議結果をまけて改めて審議することとした。
3. 電算機システムの更新について、原案どおり了承した。

### お知らせ (本館)

#### 1. 休館

12月25日(月)より1月4日(木)まで

#### 2. 貸出期間の延期

12月1日(金)から1月10日(水)の間に貸出した図書の返却期限は、1月18日(木)とします。

#### 3. 閉館時刻の変更

12月21日(木)から1月10日(水)までの間、閉館時刻は次のとおりです。

平日 午後5時

土曜日 正午